

大学ポータルをどう活用するか

大学ポータルの主たる利用者として想定されているのは、高校生やその保護者と、高校教員だ。
3つの高校の教員に私学版公開前後に取材し、生徒や自分たちが使うかどうか、どのような場面で役立つかを尋ねた。

関西 私立高校

方向性を決めた生徒が重視する条件で検索

本校は2013年度に女子校から男女共学になった。地元の中堅私立大学を中心に、約6割が大学に進学する。

大学ポータルは、ゼロから志望校を探すためのツールというよりは、国公私立のいずれか、学部・学科系統など、進学先の条件がある程度定まっている生徒向けだと思う。「重視する条件を手がかりにして志望校を比較する」「特色や取り組みの情報を読んで、新たに重視する条件を見つける」といった使い方があり得る。

特色や取り組みについては、より具体的な情報がリンク先があれば理解が深まる。当然ながらリンク先には、興味を持ったことをより深く知り得る情報が掲載されていなければならない。そこからさらに情報のありかを探す必要があったり、大学ポータルと同じ程度の情報しかなかったりすれば、その大学に対する信頼感、期待感を持ってない。

女子生徒は、大学選びにおいて「自宅からの近さ」を重視することが多い。大学ポータルを使って自身に合う教育を行う大学が見つかったとしても、それを「自宅からの近さ」よりも重視する生徒はこれまでの経験上あまり多くない。従来のそんな大学選びを覆し、「どうしてもこの大学で勉強したい」と思わせるような魅力を放つ内容を大学側が出していくこと、生徒が見つけることを願っている。(談)

関東 公立高校

指定校推薦の志願者が学べる内容を比較する

大学進学率は約5割。関東の私立大学に進む生徒が多い。大学ポータルの利用は、2年の冬から3年の春が中心になるだろう。本校の大学進学者の多くは指定校・公募推薦、AO入試を利用しており、2年の中頃から学びについての理解を深め、3年の春に大学を比較して志望校を決めている。

現在の入試制度の多様化や学びの分野の細分化については、非常に頭を悩ませている。一人ひとりに合った大学に進学できるよう、教員はさまざまな媒体に目を通し、生徒にも情報収集に努めるよう指導している。ウェブは目的をもって収集をするには適しているが、紙媒体はそこに行きつくまでに他の情報も見ることがよく、生徒にもさまざまな媒体の利用を勧めている。その一つとして大学ポータルには期待している。

本校は、主体的な進路選択ができる力を養うキャリアエデュケーションプログラムを1年次から実施しており、3年次には大学で学びたいことを絞っている生徒が多い。特に必要なのは、教育の中身が具体的にわかる情報だ。同じ名称の学部・学科でも教育・研究内容が大学によって異なるのはもちろん、近年は、我々教員でも名称から学びの内容を想像できない学部・学科が増えている。何をどう学べるかがわかるのであれば、大学ポータルは有力な情報源になると思う。(談)

東海 公立高校

進路指導には使わないまずは正直な情報公開を

本校ではほぼ全員が大学進学を希望し、地元の大学を中心に検討する。受験校決定にあたっては本人の志望を踏まえて、校内の進路検討会など教員の影響力が強い。大学関係者を招くなどして、より詳しい情報を伝える努力もしている。このような進路指導をしている本校では、学校として大学ポータルを使うことは少ないだろう。

中堅校以下の生徒が、入学後に何ができるのかを知りたいという目的で利用するケースが多いのではないかと。こうした目的に応えられるよう画像、動画による情報や、就職先の詳細など、興味を喚起する内容が必要ではないか。

進路指導において情報を参照する場合、役立つのは「本音の情報」である。抽象的な言葉で飾り立てた大学発刊の広報物には、見る価値が少ないものが多く、そもそも情報公開が不十分な大学は信用に欠けるため、生徒には勧めない。数字を公開していても、「就職率98%」など、母数がわからないデータでは公開が不十分である。実数が添えてあれば高校生が理解できるし、関心も引く。

大学ポータルも、特色のアピール以前に、自学の姿を正直に公開してほしい。不都合な情報も出している大学なら、教育の誠実さに期待が持てる。裏表のないデータが掲載されているサイトだということが広く伝われば、利用者が増えるだろう。(談)